

海上交通バリアフリー施設整備 助成の募集について

公益財団法人
交通エコロジー・モビリティ財団

1-1 対象者・対象施設設備

対 象 者

海上運送法による一般旅客定期航路事業・旅客不定期航路事業等に使用する旅客船及び旅客船ターミナルを所有する事業者

対象施設設備

エレベーター、段差解消装置、バリアフリー便所、バリアフリー客席、運航情報提供表示装置、車いす固定装置、触知案内図、バリアフリータラップ、可動式コーミング解消装置、簡易バリアフリー便所※ 等

※「簡易バリアフリー便所」とは、法令や基準等で義務化されていない便所であっても車椅子使用者等が利用できる広さを備えている構造となっているもの(P.24参照)

1-2 重視している項目（優先事項）

- ①離島航路に就航している旅客船（特に小型船舶）
- ②自然災害により被災した旅客船・旅客船ターミナル
- ③「バリアフリーガイドライン」^(注1)の推奨基準を満たしている施設、設備
- ④国土交通省環境行動計画に基づく環境貢献型経営（グリーン経営）の認証^(注2)を取得（見込みを含む）した者、または高齢者・障害者の利用が多く一般社団法人日本旅客船協会が必要と認める航路

補助航路OK！

なお、国からのバリアフリー施設・設備にかかる補助金・交付金を受けるものは除きます。

また、対象となる旅客船及び旅客船ターミナルは、原則として
2020年度中に着工し、竣工する工事とします。

1-3 助成率・限度額

	助 成 率	限 度 額
①一般旅客定期航路事業のうち 離島航路に就航する旅客船	70%(80%)以内	20百万円
②上記①以外の旅客船	60%(70%)以内	15百万円
③旅客船ターミナル	50%(60%)以内	8百万円

① ()内は推奨基準を満たす場合の助成率です。

なお、申請事業者が環境貢献型経営(グリーン経営)認証を取得(取得見込を含む)した者、または高齢者・障害者等の利用が多く一般社団法人日本旅客船協会が必要と認める航路の場合には、上記の助成率を10%嵩上げします。

②バリアフリータラップを整備する場合は、助成限度額は10百万円 とします。

1-4 助成対象経費

区分	内 容
購入費	助成対象施設等の購入費
工事費	助成対象施設等の整備に係る設置工事、外装仕上げ工事、電気設備工事、関連附帯工事等の工事費
設計費	助成対象施設等の整備に 直接要する 設計図面作成費で、エコモ財団が認めるもの

1-5 助成手続きの流れ



申請者

事前相談・ヒアリング

申請書を提出
します

持参・郵送

実績報告書を
提出します

助成金支払請求
書を提出します

申請期間に
ご注意ください!!

エコモ財団

申請期間

6月1日～7月31日

(※当日消印有効)

審査委員会で審議

交付決定通知
9月頃を予定

監査実施

助成金確定通知

1. 助成金の交付申請

2. 助成金の交付決定

3. 助成事業の実績報告

4. 助成金額の確定

5. 助成金の支払請求

6. 助成金の支払



1-6 ホームページURL

<http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/barifuri-ship/index.html>

Google

海上交通バリアフリー施設整備助成

海上交通バリアフリー施設整備助成制度

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

制度概要

助成・申請方法

バリアフリー設備のご紹介

これまでの助成実績

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団（以下、「エコモ財団」という。）では、日本財団からの助成を受けて、海上交通におけるバリアフリー化の推進と旅客船を利用する高齢者・障害者等の移動の円滑化のため、旅客船及び旅客船ターミナルのバリアフリー化に関する施設・設備の整備に対して助成事業を行っています。



2019年度の助成募集は
終了しました。

お知らせ

2019年8月31日
> 2019年度の募集を終了しました。多数の申請をいただき、ありがとうございました。
2019年6月1日
> 2019年度の助成を募集します

これまでの助成実績

詳細情報

旅客船
をみる

旅客船ターミナル
をみる

実績数

	旅客船	旅客船ターミナル
平成30年度	17隻	6件
これまでの実績	197隻	101件

ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください

助成に関するお問い合わせはこちらまで

平日9:30~17:30

☎ 03-3221-6673 FAX 03-3221-6674

E-mail : barifuri-ship@ecomor.jp



交通エコロジー・モビリティ財団
Foundation for Promoting Personal Mobility and Ecological Transportation